

新刻小學修身書

櫻老加藤熙編
初等科之部

卷一

271
3
80

53

東 京 圖 書 館				
			八	十
			三	三
冊	號	架	函	類
				部
				新書門

K110.1
260.
1

B I

170



櫻老加藤熙編

新刻小學精義書

版權所有 時習堂藏

新刻小學修身書小引

宋儒以大學為初學入德之門。西哲以修身為小學初步之教。二者恐誤矣。賊夫人之子者。其弊可勝道乎。然今予有此著書。蓋一種婆心。看者諒諸。至其詳。已有衆教論。

略七十餘卷。有志之士。披而閱讀。必有所得乎。亦何喋々。

明治十七年小春日。識於礪川
聖廟廡下。

七十四秩

櫻老加藤熙

新刻小學修身書卷之一

櫻老加藤熙 編

第一 事親 孝感

○父母の恩ハ天地と同ト

○子の之ハ報ゆるハ須らく

孝養至るべし

○能く父母小事ふる之を孝と謂ふ

○人の行ひの孝より大なるか

○父母召まひ唯して行く

○業有りと雖も必らば之を棄て、行くべし

○父母若し賜ふ所あれば拜して之を受くべし

○或は毀つことなく尊奉して收藏すべし

○父母若―遠方小在せば勤
 めて書信を致―其安否を問
 ふべ―

○若―美味阿まきば之を父母
 小寄さきべ―

○父母の教訓の言ひ必らば

守るべ―

○父母の年の知らざるべか
 らず

○一ハ喜び一ハ懼る中心傷
 むゆ一のみ

○父母此名の解せざるべか

らば觸れ犯すこと勿き

○父母過ち阿まむ必らば敢て之を諫むべし

○聲を和らぎ色成悦ばし以て其事を陳ぶべし指斥揚白する勿れ

○諫めて従いざる號哭して拜伏す

○父母在きと起て遠く遊ぶべからば

○出入小い必らば父母小告ぐべし

○父母疾阿ふ其傍を離さ
ざるに介抱さべし

○良醫小托し湯藥怠るべし
らず

○親小事ふるものい其父母
の志小違ひば

○孝子ハ天之
小福を與ふ
○不孝の子ハ
天必らば之を
罰す

第二 友愛



○兄弟姉妹ハ我同胞カ宜
しく和好きべし

○兄ハ其弟妹を愛きべし

○弟ハ其兄姉を敬きべし

○弟妹ハ幼小して事理を曉

らざきバ小過ハせむる勿れ

○若志急難阿る互小援くべ

○兄弟の中一人貧しく一人

富めバ富むもの財物を分與

きべし

○一人貴くして一人賤しけ

きば貴きまをの奉祿を以て賤
しきもの成養育まづ

第三 事君

○能く君小事ふる之を忠と
云ふ

○君ハ天下の主尊敬まづ

○君を敬まざるの心少らくも
離る可うらず

○君に事ふる謹で其職を守
るべし

○能く力を竭し忠を盡し以
て國家の恩小報ひざる可あ



らず

○忠臣の死を

畏きべ

第四 事長

○祖父母及び

父母は兄弟已

れの兄此き皆吾尊長あり

○我きより老たるものい皆

敬きべ

第五 隆師

○師の吾を教ゆるものなれ

ば父母の如く尊敬きべ

○師の教の謹で之を聽くべし

○師の恩の忘るべからず

○師の召ま時の禮を以てし

○輕忽あること勿れ

第六 學問

○學問の道理を辨へ智識を開くの要具あり

○人學ばざれば木石と異からん

○才智の學問より生ず

○身を修め名を揚る皆學問

小依る

○一事必らば求て之を知る

べー

○一善一禮必らず學んで之を行ふ

○蘇生の學を好んで錐を股

ふさし今眠らば

第七 立志

○志を立つる

の萬事を行ふ

の本あり



○志立たざれば何事もなから
ざ

○志の一途ふ期まづ

○志多けまづ一事も遂げが

く

○志を立つるに飢餓の飲食

ふ於ける如きを要まづ

○若志悠々何れを志立たざ

第八 交友

○朋友の五倫の中の一つな

り

○朋友の情の合臭して芝蘭

の如きあり

○難阿まばい相恤み疾あれむ
相扶くべし

○背て毀しるあうれ面り諛
ふことなかれ

○朋友魯我が道德を勵し我

が過ちを規きあり

○朋友い我が矇昧を開き我
が懶惰を警しむるあり

○己まに如かきるを友
とすると勿れ

○己れか如らざるもの尚宜

く之を遠ざくべし

○朋友の欺くべからざる

○交友の道に必らざる須らく

誠信恭敬以て相與ふ接さるべ

第九 禮讓

○人の人たるや全く禮あり

○禮といふ其敬を盡し其誠を

盡すは謂ふ

○禮の儀あり則ちあり以て尊

卑れ以て賤志する

○禮讓ハ人ト離るヅカラズ
る。己のあり

○禮讓あるま人の禽獸ハ異か
らば

○人ハ接するハ謙遜を第
一とす

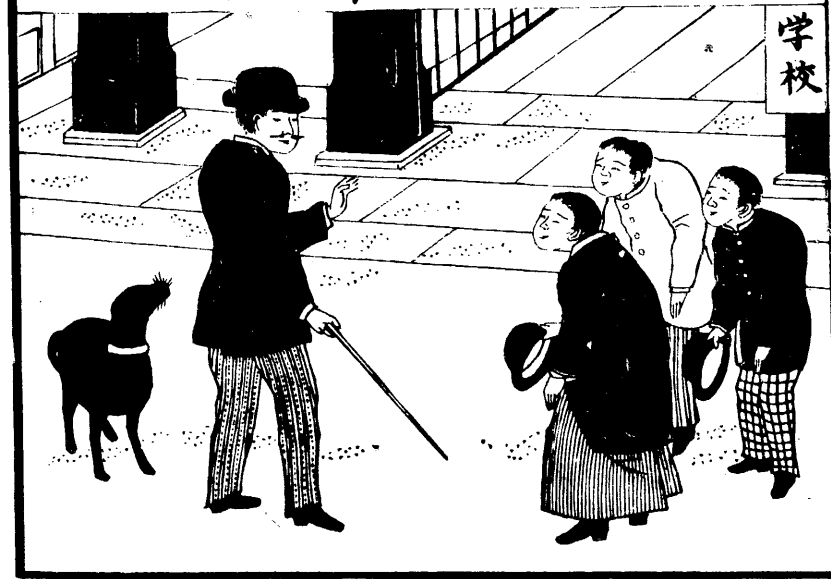
○人ハ故貴で己れを賤シみ人
を先ハシて己を後ハス

○路ハ長者ハ遇ハバ歩を停
て拜ま

第十 恭敬

○動止い必ら
ば恭敬あねづ

○凡る諸の卑
幼大小とあく
専行まゐること



得る勿き命を尊長小稟くづ

第十一 誠實

- 誠實い人心の本根あり
- 百行皆誠實ふ因てなむ
- 我が身を省て誠あまは樂

み之より大なるあり

○誠は天の道あり誠を思ふ
は人の道あり

第十二 厚德

○君子は人の徳義を取り小
人の人比勢利を取るをのな

り

○過ち有り悔を知るもの
君子たるは失はず

○過ちを知りて非を遂ぐる
をの小人あり

○人を見るの時小至ては禮

貌亦必らず端正恭敬あるべ

新刻 小學修身書卷之一

明治十七年九月廿九日版權願
同年十月十三日版權免許發兌

福島縣士族

編輯人

加藤

熙

定價六錢

東京府士族

出版人

松井方景

牛込區下宮比町九番地

茨城縣平民

出版人

寺田新助

新治郡土浦仲城町六十八番地



新刻小學修身書

櫻老加藤原編
初等科之部
卷二

東 京 圖 書 館				
冊	號	架	函	類
			八	十
				三
				部
				新書門

K1101
23
2